

保土ヶ谷区洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域(想定最大規模※)

帷子川水系河川：帷子川、くぬぎ台川、今井川、新井川

この洪水ハザードマップは、帷子川水系等の河川の氾濫が予想される場合や実際に氾濫した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

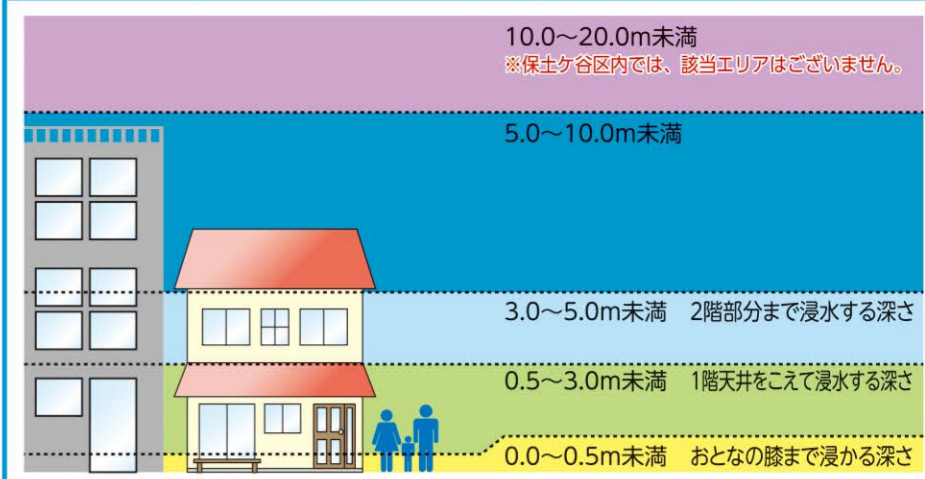
※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の降雨」による氾濫を前提として予測したものです。



出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9024号 横浜市建築局都市計画基本図データ(地図レベル2500)により作成
河川	横浜市下水道河川局 河川図
浸水想定区域	帷子川水系浸水想定区域図
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域(令和7年7月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域(令和7年7月現在)

凡例 (Explanatory Notes)

◎浸水深のめやす



※内水ハザードマップの浸水深とは、浸水開始後の水深です。

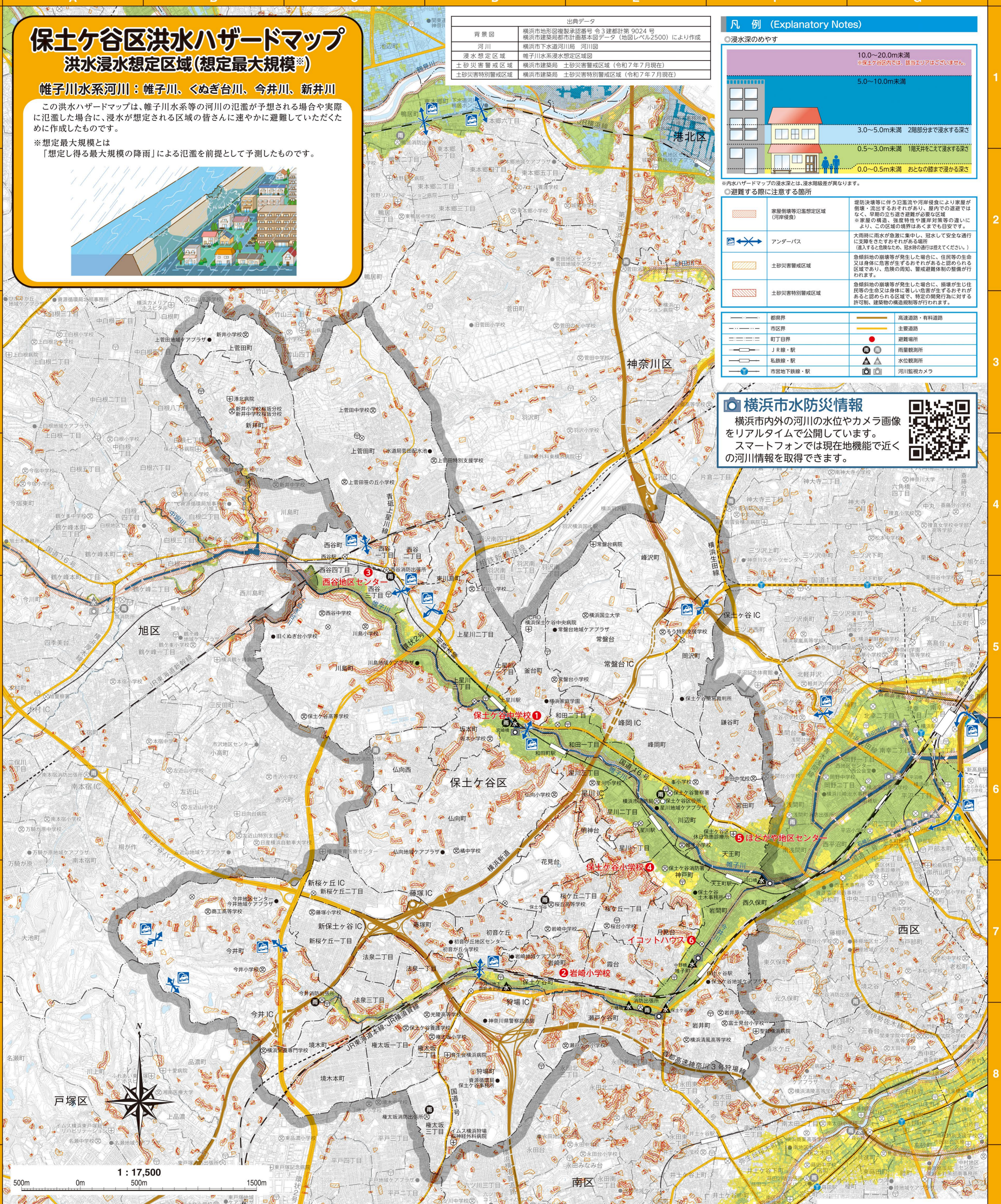
◎避難する際に注意する箇所

	家屋倒壊等浸水想定区域(河津堤防)	堤防決壊等に伴う氾濫流や河岸侵食により家屋が倒壊・流出するおそれがあり、屋内での避難ではなく、早期の立ち退き避難が必要となる区域。※家屋の構造、強度特性や護岸対策等の違いにより、この区域の境界はあくまでも目安です。
	アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行が困難となるおそれがある箇所(進入すると危険なため、冠水の通行は控えてください。)
	土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危険が生ずるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
	土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損壊が生じ住民等の生命又は身体に重大な危険が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

	都県界		高速道路・有料道路
	市区界		主要道路
	町丁目界		避難場所
	J R線・駅		雨量観測所
	私鉄線・駅		水位観測所
	市営地下鉄線・駅		河川監視カメラ

横浜市水防災情報

横浜市内外の河川の水位やカメラ画像をリアルタイムで公開しています。スマートフォンでは現在地機能で近くの河川情報を取得できます。



1 : 17,500

500m 0m 500m 1500m

想定条件

帷子川水系：24時間で390mmの降雨

洪水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの？
 こちらの面の洪水浸水想定区域^{※1}の範囲やその深さは、想定し得る最大規模の降雨(24時間で390ミリ)を前提として、川の水があふれた場合や堤防が壊れた場合をシミュレーションにより予測したものです。
 【参考】横浜地方気象台では、平成26年10月5日に24時間で約307ミリの降雨を観測しています。^{※2}
 なお、この洪水浸水想定区域は、前提となる降雨を超えるような大雨、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していませんので、着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

※1 神奈川県ホームページ (https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4i/cnt/f3747/p1039490.html)
 ※2 横浜地方気象台ホームページ (https://www.jma-net.go.jp/yokohama/)

要配慮者利用施設等の確認はこちらから

風水害時における避難場所について

- ◇災害時には、指定緊急避難場所以外に、地区センター、地域ケアプラザ等の公共施設、自治会町内会館を避難場所として開設する場合がありますので、避難する際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。
- ◇2か所以上の避難場所へ避難できるよう、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。
- ◇すでに浸水が始まっている場合には無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところに避難してください。

なお、保土ヶ谷区では風水害時の避難場所として、下記に示した避難場所を優先して開設します。

No.	避難場所	所在地	位置
1	保土ヶ谷中学校	釜台3-1	D-5
2	岩崎小学校	岩崎町22-1	D-7
3	西谷地区センター	西谷3-15-1	C-4
4	保土ヶ谷小学校	神戸町129-4	E-7
5	ほどがや地区センター	天王町1-21	F-6
6	イコトハウス	月見台37-1	E-7

大雨により河川の氾濫のおそれがある場合の避難場所